



—北アフリカ地域ニュース—

スーダン・エジプト：ダルフル情勢（エジプトの仲介努力）

（7月15日付エジプト各紙）

7月15日付エジプト各紙は、ケナーウィ・エジプト国家情報庁（GIS）副長官とダルフル反政府勢力との間で開催されたダルフル統一支援のための「カイロ会合」について報じている。概要は以下の通り。

1. 参加グループ

この会合には、スーダン解放軍運動（SLM/A）、統一抵抗戦線（URF）、SLM/A ジュバ・ユニティ、正義と平等運動（JEM）（イドリース・アズラク派）、統一革命軍戦線（URFF）、正義と民主主義の国民戦線、SLM/A ジェネラル・ラインら7派が参加した。

2. エジプト側の働きかけ

- (1) 14日の閉会会合で、議長を務めたオマル・ケナーウィ国家情報庁（GIS）副長官は、ソリマン GIS 長官が、各グループの成功、統一を願っている事を伝えた。
- (2) 交渉に参加したスーダン情報筋は、エジプト側は各グループ間の統一のための包括的な提案（「ロードマップ」）を提示し、その目標は最高で「定期的に代表の地位がグループ間で移る統一的合併戦線（United incorporated front）」の形成で、最低でも合同交渉代表団の枠内で前グループの交渉の立場、政治的ビジョンを統一する事であると述べた。
- (3) エジプト・ハイレベル情報筋は、ダルフル危機解決のための各グループ統一のためのエジプトの活動は、スーダン統合へのエジプトの完全な関心によるものであり、その根本的な目的は、ダルフル住民の苦悩をなくす事であると述べた。また、同情報筋は、カイロ会合は、スーダン統一の枠内で、ダルフルを結集させ、スーダン政府との交渉に入るための一歩であると述べた。
- (4) また、別のエジプト情報筋によれば、エジプトの努力はカイロに往訪した反政府勢力だけにとどまらず、ダルフルに影響力のある様々な国内及び地域内の当事者にも及ぶものであり、この文脈でアイマン・バディーウ・駐スーダン（ハルツーム）エジプト総領事はミニー・アルクー・ミナーウィ・スーダン大統領補佐長兼ダルフル兼移行政府長に、カイロ会合での反政府勢力とエジプト当局の動向を説明する

エジプト政府からの書簡を渡し、この書面の中で、エジプトは、ミナーウィがダルフールのリーダーとして大部分のダルフル勢力代表との関係において演じる役割を期待していると述べた。

3. ダルフル反政府勢力の反応

- (1) 会合に参加したダルフル武装勢力7代表は、統一スーダンの枠内でのダルフル問題解決のために各グループの見解、歴史的立場の統一を目的とするエジプトの努力を支持し、また、積極的な地域的協力とともにスーダン・チャド間の和解実現、ダルフル勢力の統合、ダルフルでの治安状況・人道的状況の向上に代表されるエジプトの戦略的見解を支持した。そして、エジプト提案への自分たちの見解を提示し、提示した見解の検討がエジプト側によってなされた後に、再びグループとの会合を開くことを求めた。
- (2) 参加者らは、この分野でのリビアの積極的役割を評価しつつ、この目的を達成するための地域的努力の統合、市民社会の努力の重要性について一致した。
- (3) ガージー・サラハッディーン・スーダン大統領諮問官兼ダルフル問題責任者は、ダルフル情勢における明確な向上があったことを確認しつつ、最近の数日間は国境付近は静寂化している事に触れ、ダルフル問題やチャドとの間の問題解決のため、国際社会と協力するため多くの考えがスーダンにあることを指摘した。また、サラハッディーン氏はカイロ会合を通じて武装勢力の統一化のためのエジプトの努力を評価しつつ、スーダンには、エジプト、リビア、カタルがダルフル問題のために払った努力を結集させる考えがあると述べた。